平成28年9月1日
第112号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 黒瀬和美
電話 972・5819

猛暑に負けずに育て



重く垂れ下がり始めた稲穂（8月25日）

今年の夏は記録的な暑さでした。連日35℃を超しました。時には日本で一番暑い時もありました。そんな厳しい条件の中でも、水田の稲は確かな実りの日に向けて育っています。

景観形成のための花壇では、アサガオがものすごい勢いで育ちました。たくさんの花、密集した葉っぱ。あたり一面アサガオに覆われてしまいました。反対に「ひまわり」は元気を失ってしまいました。



あまりに茂って支柱がどこにあるのか分からない

オリジナルクッキー

地元産麦「瀬戸きらら」で製作

八方原地区の麦を使ったクッキーを今年も作成していただきました。

当地区のふれあい盆踊り大会に間に合うように、伊藤悦子さんに依頼して、製作してもらったものです。



この地区で生産される小麦は多くはパンの原料となります。麦は稲とは異なり、温暖と水分を嫌います。したがってこの地域では秋から翌年の春に向けての育成となります。

今年の春収穫されたのは「瀬戸きらら」という品種です。育てやすく収量も多いということですが、それでも稲作とは比較にならない労力が必要になります。

盆踊りの会場で100袋を配布しましたが、ご賞味いただけましたでしょうか。

水漏れ発見

連日運転されている揚水ポンプ。椹野川から汲み上げられた大量の水は、送水管を通して用水路に流されます。

中には水漏れを起こしているところもあり、当会では、それらを日常的に見守りながら、必要な手当てを考えているところです。

先日送水管のそばを通ると、水漏れの音が聞こえました。見ると、ジョイント部分からわずかな漏水です。できるだけ早いうちの対策が必要です。



以前にも修理した部分から、わずかな漏水

この通信は http://www.harataco.org/sigeki/ で読むことができます

たくさんのご協力に感謝

久しぶりの顔が揃った「盆踊り」



お互いの振りを見合いながらの踊り。明るい照明はグリーンクロス社から提供

8月6日の夜、八方原ふれあい盆踊り大会が行われました。地区内で一年間に鬼籍に入られた方々の遺徳を偲びながら、夏の夜をともに過ごす大切な行事です。

自治会ではこの行事を機動的に運用できるように、企画運営の責任者を新たに定めることを年度の初めに決めました。今年度は本田昇さんが運営リーダーとして、様々な準備に奔走しました。

新たな試みとして、25年前の地区子ども会の作った「未来予想」パネル展示がありました。掲載された本人は半分照れくさそうに、親御さんなどは懐かしそうに見入っていました。25年前の盆踊り大会当時は、地元の養鶏場から分けていただいた鶏肉を自分たちで竹串にさして、食材を作っていました。

生改連グループの解散で、一部のバザーが内容が変わりましたが、新たに地元の事業所「グリーンクロス」さんが、本格的な出店をしてくださったので、新た食品の提供があり参加者から大変喜ばれました。

ふしの夏まつりに自治会として参加をしなくなって2年目になりますが、驚いたことが起きました。「小郡音頭」「ふしの踊り」の踊りが揃わなくなりました。

以前はまつりの前に踊りの練習を日を設けて振り付けの確認をしていましたが、取りやめとなりました。ほぼ1年ぶりに踊ろうと思うと、それぞれがまちまちになって、きちんとした踊りの輪になりませんでした。また、「白河踊りがないのも寂しいね」という声がありました。

この盆踊り大会にはたくさんの事業所から、ご芳志をいただきました。厚くお礼を申し上げます。



一瞬の輝きの花火、みんなの記憶に残ると良いけれど

集まった「空き缶・新聞紙」を整理

子ども会のメンバーにとって夏休みの終わりの行事「廃品回収」は保護者とともに頑張る大きな行事です。

毎月第2日曜日のリサイクルの日を休みにして、盆明けに行うので、飲み物の空き缶など大量のリサイクル資源が集まります。

21日は朝からカンカン照りの猛暑。全員汗びっしょりで作業をしていました。集積所の無い時代は、これらをブルーシートに包んで保管していましたね。



集積所の外でも作業、次々にリサイクル資源が集まる